



## はな 花は、どうしてかれるの

### はな かぶん うと たね つく 花は、花粉を受け取り、種を作る

はな はな 植物 が子孫をふやすための、種を作る場所です。種を作るためには、虫などに、同じ種類の別な花の花粉を、めしべに運んでもらわなければなりません。そのため、花は、虫が集まるように、目立つ色をし、よいにおいをまわりに出し、みつなどを用意してまっています。ヘチマなどのように、お花とめ花があるものは、お花が先に咲くようになっていたり、一つの花の中でも、おしべが先に熟すようになっていたりしています。こうすれば、確実に、やってきた虫が、ほかの花の花粉を、め花や、めしべにとどけることができるからです。

### かぶん うと はな やくめ お 花粉を受け取ったら、花の役目は終わる

はな はな 種類によって、咲き始める時間や、花を閉じる時間が、ほぼ決まっていることが多いものです。アサガオなどは、早朝から午前中までで、しぼんでしまいますし、ヘチマなども、ほぼ1日でしぼみます。ヒマワリのように、何日も咲き続ける花もあります。でも、たいていの花が、花粉を受け取ると、花の役目は終わったので、やがて、かれて落ちてしまいます。そして、めしべの根元のあたりがふくらんできて、種ができます。

ヘチマのお花などは、1日でしぼみ、次の日には、花のえに切れ目が入って、ぽろりと地面に落ちます。め花は、しぼんだ後も、種ができる部分を守るように、しばらく残っていることが多いのですが、やがてかれてしまいます。めしべの部分は、種を作るいちばん大切な所ですから、残っています。

かいいりょう かさ えんげいしゅ はな たね おお はな なんにちかん さ  
改良を重ねた園芸種の花などは、種ができないものも多く、花は何日間か咲いたら、じゆ命がきてかれます。でも、根やくきなど、ほかの部分は生きています。(監修・矢野 亮)

